

日本生体医工学会 2024 年度第 2 回理事会議事録案

日時：令和 6 年 8 月 2 日(金) 14:00~17:00

会場：オンライン

<出席者>

理事長： 黒田 知宏

副理事長： 芦原 貴司、原口 亮

理事： 荒船 龍彦、小野 弓絵、小川 充洋、加藤 博史、川田 徹、木村 裕一、
西條 芳文、白石 泰之、中島 章夫、成瀬 恵治（兼 中国四国支部長）、
平田 雅之、真茅 孝志、山家 智之

監事： 大城 理、村垣 善浩、横澤 宏一

<オブザーバー・出席者>

幹事： 木村 雄亮、坪子 侑佑（兼 若手研究者活動 WG 長）

事務局長： 中島 一樹（兼 北陸支部長）

オブザーバー： 寺島 正二郎（甲信越支部長）、中西 義孝（九州支部長）、
豊原 涼太（北海道支部 連絡幹事）、堀 純也（臨床工学技士連携 WG）

<欠席者>

理事： 家入 里志（兼 九州支部長）坂田 泰史（兼 関西支部長）、
佐久間 一郎（兼 関東支部長）、前田 義信、松本 健郎（兼 東海支部長）

オブザーバー： 大橋 俊朗（北海道支部長）、渡邊 高志（東北支部長）、
高田 宗樹（第 64 回大会長）、板井 駿（幹事）

<理事会議題>

0. 理事会の成立 黒田 理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 16 名の出席と監事 3 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 2024 年度委員会・WG 構成名簿【審議】 黒田 理事長

2024 年度における日本生体医工学会の各委員会、および WG の構成員について報告された。利益相反委員会、および齋藤奨学金選定委員会については構成員が決定した。高校生向け取組 WG は原口 副理事長と荒船 理事の 2 名体制で進める旨が報告された。財務委員会については副委員長を調整中であり、中島 章夫 先生に担当いただく予定である旨が報告された。学術委員会については構成員が決定し、専門別研究会評価委員会は、財務・総務・副理事長の先生方に確認の上、次回理事会までに確定予定である旨が報告された。ME 研究推進 WG については調整中で

あり、若手研究者活動 WG については構成員が決定した旨が報告された。臨床研究法 WG は副 WG 長を調整中であり、次回理事会までに確定させる予定である旨が報告された。国際委員会、編集委員会は構成員が決定した旨が報告された。教育委員会は坂田 理事が欠席のため、事務局より確認し、次回理事会で確定する予定である旨が報告された。また教育委員会のミッションについて不明点があり、場合によっては再検討の必要がある旨が報告された。ME 教育 WG、ME 教育委員会、CE 委員会、臨床工学技士会連携 WG、選挙管理委員会、および広報委員会は構成員が決定した旨が報告された。企業向け取組 WG は提出資料に加え、荒船 理事に参画いただきたい旨が報告され、全会一致で承認された。選奨委員会については次回理事会までに委員長を決め、委員構成を決定できるよう要請された。

2. 議事録について【審議 A】 黒田 理事長

2024 年度第 1 回理事会の議事録案の概要について報告された。修正点がある場合は 8 月 13 日(金)に事務局までご連絡いただき、お盆明けを目処に承認することとした。

3. 選奨報告 第 63 回大会コニカミノルタポスター賞【審議 R】 家入 理事

鹿児島での第 63 回大会において、昨年度大会と同様に設定したコニカミノルタポスター賞について選奨報告が行われた。組織委員会の中から選奨委員会を設定し、M 系 5 件、E 系 5 件を選出した。選出後に選奨会議を大会期間中に開催し、受賞者 10 名を選定した旨が報告された。

報告された受賞者について、全会一致で承認された。また、書類の一部に不備があったため、この点を修正した上で、最終版を作成することとした。

4. バックナンバー対応策について【審議 H】 小野 理事

編集委員会より生体医工学会誌のバックナンバーの対応について報告された。事務局の移動に伴い、生体医工学会誌の保管場所が無くなった。編集委員会及び財務委員会とで検討し、保管方法と資料圧縮策として、以下の内容が提案された。

①学会誌刊行センター（笠原 様の管理下）で各号 1 冊を保管

現在学会誌刊行センターの笠原 様より、編集用の資料として利用したいために保管化である旨が連絡された。在庫のない 19 巻 2 号～49 巻 6 号まで、各 1 冊（合計 209 冊）を移動する。

費用：8,000 円程度（ヤマト運輸 北陸-関東 サイズ 200×2、計 60kg 以下）

②当年度分は新規入会者のために、150 冊を在庫として保管

年 4 冊発行で各 150 部であるので、保管数量は 600 冊程度である。150 冊の根拠は過去 3 年間の新入会委員数から計上しており、今後増加や減少があれば見直していく旨が報告された。

費用：7,000 円/年程度（500 冊を保管する費用は、6,000 円/年程度）

③上記以外の約 12,000 冊は廃棄処分

費用：50,000 円程度

ただし、廃棄を何回かに分けると上記より高くなる旨が報告された。また、論文等については、全てデジタルデータで残っているため、学術上の記録として問題はない旨が報告された。また、500～1,000冊程度廃棄が増えても、費用の増加は大きくないと想定される旨が報告された。

在庫が増えてしまった理由について、会員数に対して多く刷りすぎていたことが判明した。現状は年2,000冊以上印刷を行っているが、現在の会員数を考慮した場合、新規会員のための150冊を見込んでも、2,000冊で足りると試算される。そのため今後は作成部数を2,000冊にする旨が報告された。

本件について、会報については紙媒体でしか存在していないはずだが、破棄してしまって問題無いか質問され、笠原様のところに1部は保管されているため、問題ない旨が回答された。

以上より、本提案について全会一致で承認された。

5. 他学会協賛・後援【報告 A-2】山家 理事

他学会から日本生体医工学会に対し、いくつかの後援・協賛依頼が届いている旨が報告された。依頼について、以前より後援・協賛を継続している学会、および理事からの推薦があった学会については承認とし、それ以外の新規の依頼について、総務委員会で議論し、承認する運びとなった旨が報告された。

本協賛・後援依頼について、全会一致で承認された。

6. 日本医学会向け分科会活動報告書提出について【報告 A-3】山家 理事

日本医学会向け分科会活動の報告書について報告された。数年に1度、医学会全体に対し、日本医学会分科会として本会の活動報告を行う必要がある。本件について、国際的に重要な活動である、IFMBE Asia Pacific Group 主催の APCMBE などへ日本の医学会の代表としての参画、社会的意義として、論文出版活動におけるインパクトファクター取得見込みである旨を記載した旨が報告された。また、他の分科会との連携活動として、日本人工臓器学会、および日本在宅透析学会と連携し、専門別研究会として在宅人工臓器治療研究会を立ち上げ、日本医学会に横断的な領域を築きつつあること、および新たに「齋藤奨学事業基金」の設立を進め、若手の研究者の育成を推進することを記載した旨が報告された。また、日本医学会への期待として「臨床研究法」について、特に病院のない研究施設などでは対応が困難な側面が強く、今後ともわかりやすい説明と、綿密な対応が望まれる旨、および「日本医学会」に所属する若手研究者が経済事情から進学をあきらめる学生を減らすことができる、齋藤奨学事業基金のような制度を整えるべきである旨を記載したことが報告された。

以上の内容を理事長名義で「日本医学会分科会活動報告」として作成し、提出した旨が報告された。

7. 入退会報告、及び同年度内の再入会について【審議 B】事務局

第 2 回理事会における入退会審査について、入会希望が 13 名（正会員 12 名、準会員 1 名）、退会希望が 14 名（正会員 9 名、準会員 5 名）である旨が報告された。入会希望者のうち 4 名については推薦者欄の記載がなかったため略歴書での審査とし、内容について問題が無かったため、入会希望者の入会について、全会一致で承認した。

退会希望者について、梅村 先生、および鈴木 先生については、前回理事会において年齢が誤って入力されていたため、訂正した旨が報告された。また、退会希望者のうち、中尾 光之 先生、および尾崎 眞啓 先生は、名誉会員に推戴できる可能性が指摘された。これに対し、本学会に積極的に参加されたご実績は無かったため、お二人の退会を認めることとした。また、会費の滞納がある退会希望者が 4 名いたが、1 年間のみの入会を希望していた方、あるいは旧事務局において請求書が送付されていたかが不明であるため、今回については滞納分を請求しないこととした。以上より、退会希望者全員の退会について、全会一致で承認した。

続いて、同年度内の再入会について報告された。5 月 10 日の理事会で退会を承認された方が、横澤 監事の所属する北海道大学に異動されたので、横澤 先生よりお声がけして北海道支部に登録された旨が報告された。上述のようにすでに退会が承認されているが、それを取り消すことができないか、事務局に連絡された。もし退会承認の取り消しができない場合は再入会の手続きが必要だが、その際に入会金が再度必要になるのか、問い合わせをいただいた旨が報告された。

本件について、事務局で確認したところ、現在の規定だと、退会承認されたものが、再び入会を希望する際は、新入会の場合と同じく定款第 7 条に定める手続きを行わなければならないとあり、正会員・準会員・維持会員になろうとするものは、入会金および会費を添えて所定の入会申込書を理事に提出し、理事会の承認を受けなければならないことになっている。会員担当の西條 理事に相談したところ、現状では会則や定款を変更しなければ、再度入会金を支払い再入会していただくしかないが、可能であれば理事会で審議していただきたいとの旨が報告された。

再入会の入会金については、以下の 2 つの考えがある。

1 つ目は再入会の場合も入会金が必要であるとする考え方である。その理由として、事務手続きに事務局の労働時間がかかっている点が挙げられる。また、入会金 1,000 円は会員の大きな金銭的負担にはならないと考えられる。

2 つ目は再入会時の入会金を免除するという考え方である。この理由として、多くの会員の獲得、復帰のしやすさ、および入会後の会費で事務手続きの費用は回収できると考えられる点が挙げられる。以上 2 つの考え方について、理事会で審議いただきたい旨が報告された。

本件について、どのような方がご連絡してきたのか質問され、日立メディコから北海道大学の教員に着任された際に退会された方である旨が回答された。北海道支部会での特別講演を依頼しようとしたところ、退会していたことが判明した。これを機に復帰頂ければ、支部でも今後活躍いただけたらと思います、問い合わせをした旨が回答された。また、定款の記載がある以上、定款に則るべきである旨が報告された。

以上より、定款に則り、入会金を支払っていただき再入会の手続きを行うこととして全会一致で承認された。また、休会の扱いに関する議論については、次回以降、西條 理事よりご提案い

ただきたい旨を事務局より連絡することとした。

8. 会計中間報告について（2025年1月実施）【報告 C-1】 小川 理事

PCO との契約内に、会計中間報告を実施する旨が記載されており、2025年1月を予定しているため、各委員会、支部、WG には、中間報告として12月末までの現状を報告いただきたい旨が依頼された。

上記に対して、年度末の一回報告のみだと会計報告締切を越えてしまうこともあったため、中間報告の実施が提案された経緯であるが、中間報告の実施によって立替えなどの手続き業務が発生すると、事務局の負担が増えるのではないかという懸念が指摘された。

事務局からは、年度末の実施となってしまうと次年度計画の立案などの業務と重なることもあり、前倒して12月ではなく11月末までの段階で一度会計状況を整理したい旨の要望があり、その際には提出依頼や催促についても事務局から連絡することとした。

これに対して、現状、専門別研究会は口座を持っていないため予算執行状況の確認ができない旨が指摘され、中間報告を実施する方法としては、研究会で把握している経費執行状況を提出する、もしくは事務局に現在の執行状況を送付いただき、それに対して研究会で執行した経費の状況を追加するというアクションをとる必要があるという問題が指摘された。また、経費を立て替えておき後日事務局に支出依頼をする研究会もあるため、必ずしも執行状況を事務局が把握できる状態ではないことについても指摘された。

上記を踏まえ、専門別研究会の経費の立替え状況も含めた本会の会計状況を事務局が把握することを目的として、今年度の中間報告の実施準備を進めることとした。

9. 専門別研究会・支部経費等に関する取り扱い基準の変更について【審議 C-2】

小川 理事

2023年度第6回理事会にて旅費規程の一部変更が承認され、宿泊料支給の上限額が1泊13,000円から15,000円へ引き上げられたことを受け、「専門別研究会・支部経費等に関する取扱基準」における宿泊費についても、1泊15,000円としたい旨が報告された。

また、同取扱基準の、事業報告、事業計画書、予算案の提出方法について、従来「郵送」での報告と記載していたところを、メールでの提出を認めている実情を踏まえて「郵送等」と訂正したい旨が報告された。

上記に対して、本基準の改訂日を令和6年8月2日としているが、付記には「本基準は令和6年度より施行する」とあり、遡っての施行となるのかについて質問があり、その通りである旨が回答された。

次に、次年度事業計画書、予算案の提出の時期が、本会、専門別研究会、支部とで統一されていない問題が指摘され、次回、小川 理事より改善案を提案いただくこととした。

取扱基準の2点の改訂提案については全会一致で承認された。

10. 委員等報酬規程の変更について【審議 C-3】 小川 理事

本会の「委員等報酬規程」について、委員等の対象を本会の支部や研究会の長が認める非会員にも拡張し、報酬の支払いを認めたい旨が提案された。

具体的には、委員等報酬規程の（目的）第1条第2項に、

「また、委員等には、本学会の支部や研究会の長が認める本学会の会員でない者を含むことができる。」

の文言を追加することが提案された。

上記に対して、もともと支部内で非会員への報酬支払は行われており、ME 技術教育委員会では作問委員会に非会員が含まれているという現状も意見されたことから、支部、研究会が予算の範疇で行う分においては問題がないため、全会一致で承認された。

11. ①日本医学物理学会との参加費相互優遇制度について、②PCO との学術大会運

営に関する業務委託契約書契約名義について【審議 D-1】木村 理事、前田 理事

まず、日本医学物理学会より、「参加費相互優遇制度」の取り組みについて相談があった旨が報告された。本制度は、覚書を交わした学会間で、互いの学会に会員設定の会費で参加できる（演題発表して良いか否かは大会ごとに決める）という制度であり、日本医学物理学会は日本医用画像学会と既に同制度の運用を行っている。本制度を本会とも開始したい旨の相談があり、学術担当理事が日本医学物理学会との本制度の運用に向けた覚書作成の手続きに入ってよいかの審議が依頼された。

上記に対して、優遇措置そのものはよいが、非会員は消費税の課税対象者になり、その場合は消費税分のインボイスを別途作成しなければならなくなるため手続きが煩雑になり、事務局負担が増えるのではないかと指摘があった。

これに対して事務局より、会員参加費と消費税分の2種類のインボイスを作成する必要はあるが、SMART Conference の設定で対応できるため問題ない旨が回答された。

本件について、全会一致で承認された。黒田 理事長が覚書案を作成し、木村 理事、前田 理事に送付することとした。

次に、福井大会の運営について、PCO 社と業務委託契約を締結したく、原案を作成いただき、木村 理事、前田 理事の確認済みである旨が報告された。

第4条の遅延損害金、第7条の知的財産、第9条の損害賠償に関する記載については、詳細まで検討する必要があるため、PCO と大会事務局とで確認いただくこととした。

12. YIA2024 選奨報告【報告 F-2】 坪子 若手研究者活動 WG 長

第63回日本生体医工学会大会において2024年5月24日に開催された Young Investigator's Award 2024 の選奨結果について、以下の6名の受賞者が決定した旨が報告された。

- M系最優秀賞： 角井 泰之（防衛医科大学校）
「近赤外 LED 光による photobiomodulation を用いた移植用 3 次元培養皮膚の活性化」
- E系最優秀賞：石垣 駿（東京電機大学）
「並列処理 OCR による複数医療機器の相互運用性簡易構築システム」
- 特別賞/M系優秀賞：佐藤 充（群馬県立県民健康科学大学）
「看護業務効率化を目的とした非接触型電子カルテ操作システムの開発」
- M系優秀賞： 佐藤 廉（北里大学）
「悪性脊髄腫瘍に対する穿刺型 PDT のための in silico 最適光照射プローブ検討」
- E系優秀賞： 南雲 健人（青山学院大学）
「EMS を利用した筋疲労バイオフィードバックシステムの提案」
- E系優秀賞： 永山 花香（広島市立大学）
「骨伝導音がヒトの立位姿勢制御に及ぼす効果の検証」

上記の選奨結果について、全会一致で承認された。

本年度の YIA の開催においては、2023 年度と同様に CE セッションとの重複受賞を避ける対策を講じており、次年度も同方針としたい旨が報告された。また、今回、YIA の過去受賞者が再度 YIA に応募し、その結果再受賞者が発生した。そこで、次年度以降は過去受賞者の再応募を不可として、広く若手研究者の受賞機会を増やしたい旨が提案された。

上記提案に対して、再応募制限の設定について合意が得られた。

再応募者の確認方法について質問があり、受賞者リストとの整合を行う方針である旨が回答された。これに対して、「姓の変更等で確認が困難となる可能性もあるため、応募文章にも再応募を認めない旨を記載しておいた方がよい」との指摘があったため、Web サイト公開時には文言を追加することとした。

13. IFMBE Council of Societies 参加【報告 G-1】 松本 理事（代理：白石 理事）

2024 年 6 月 9 日～13 日にスロベニアで開催された EMBEC 2024 (9th European Medical and Biological Engineering Conference) の会期中に IFMBE Council of Societies (CoS) が開催 (2024 年 6 月 11 日 16:00～@St. Bernardin Conference Center) され、白石 理事が参加した。

以下の、各国の国際学会開催予定についてアナウンスと承認 (*は会員配信済) がなされた。

Taiwan, ICBHI 2024 2024 年 10月30日～11月2日*

Singapore, ICBME 2024 2024 年 12月9日～19日*

IUPESM World Congress 2025 2025 年 9月29日～10月4日, Adelaide

IUPESM World Congress 2028 2028 年, Mexico

MBEC2027 (Università Campus Bio-Medico di Rome)

EMBEC2030 (Clarion Congress Hotel Plague)

上記以外にも多数の国際学会開催アクティビティの紹介がなされ、IUPESM World Congress

2031 についての開催地提案案内があり、スウェーデンの Fredrik Nikolajeff 教授が申請プロセスに興味を示していた。

また、KP Lin 教授 (President-elect、台湾)より以下の報告があった。

- IFMBE が共同で参画する WHO の作業課題(2025-2028)に医療機器と医工学が含まれる

- WHO の医療機器グローバルフォーラム開催 (Geneva, 2024 年 12月3-5日)

次回の CoS は World Congress 2025 にて開催されることとなった。

上記に対して、本会として対応が必要な事項があるかについて質問があり、IFMBE が中心となるため、必要や要望に応じて対応を検討することと回答された。

14. ME 技術実力検定に関する報告【報告・審議 J-1】 中島 (章) 理事

本年度の ME 技術実力検定試験に関する報告が行われた。

まず、第 25 回第 1 種 ME 技術実力検定試験講習について実施報告がされた。e ラーニング期間は 2024 年 5 月 13 日 (月) ~6 月 15 日 (土) で、受講料は 5,000 円である。受講者は 181 名であり、昨年度比+13 名で若干増加した旨が報告された。

また、2024 年 9 月 8 日 (日) に開催予定である第 45 回第 2 種 ME 技術実力検定試験の準備状況について報告された。試験は現地実施予定で、申込ベースの受験予定者は 5,899 名であり昨年度比-672 名で、6%減収が見込まれる。また、予定通り試験時間を短縮し、途中退出を廃止する旨が報告された。

次に、第 29 回第 1 種試験の合否判定会議が 2024 年 7 月 26 日 (金) に行われ、結果として、161 名を合格 (昨年度比+17 名) とすることとした旨が報告された。なお、IBT での試験中は委員がカメラを確認し、試験中の不正行為はなかった。

上記の 161 名の合格判定について、全会一致で承認された。

なお、合格基準欄の「合格率：60.0%」は誤りであるとの指摘があり、正しくは 53%であるため、修正することとした。

15. 第 63 回大会 CE セッション選奨報告、第 64 回大会 CE セッション選奨申請【審

議 J-3】 堀 臨床工学技士会連携 WG 長

まず、第 63 回日本生体医工学会大会 2024 における「臨床工学技士セッション」で行われた発表演題について審査を行い、下記の演題が「日本生体医工学会 臨床工学技士研究発表奨励賞」として 2024 年 5 月 25 日に選奨された旨が報告された。

賞の名称：日本生体医工学会 臨床工学技士研究発表奨励賞

発表題目：VA-ECMO 補助時の左室脱血が全身および冠循環に及ぼす影響

発表者：吉田 祐希、横田 翔平、松下 裕貴、佐藤 啓、森田 英剛、西川 拓也、

福満 雅史、川田 徹、上村 和紀、朔 啓太 (国立循環器病研究センター)

上記の選奨について、全会一致で承認された。

続いて、第 64 回大会における CE セッションの選奨申請がなされた。臨床工学技士領域における研究発表の活性化を目的として、第 64 回日本生体医工学会大会で開催する臨床工学技士セッション（CE セッション）での発表者に対して優秀な者を表彰するものである。昨年度と同様に、若手研究者活動 WG 主催の Young Investigator's Award への重複応募は認めるが、Young Investigator's Award の選考を通過した場合には CE セッションの発表対象外とする。また、従来 1 名のみを受賞者としていたが、レベルの高い発表が増えてきたため、最優秀賞 1 名、優秀賞 1 名、奨励賞 1 名に賞状を授与することとしたい旨が提案された。

上記の選奨申請について、全会一致で承認された。

16. ML 配信と WEB ページ更新【報告 N-1】 白石 理事

会員向けメーリングリスト配信とホームページの改訂を PCO に業務委託したい方針である旨が報告された。2023 年度第 6 回理事会で ML 配信を PCO に依頼することが承認されており、現在までに月 5 通程度の実績がある。学術大会・シンポジウムと学会運営の事務局が PCO 社に一元化されたため以前より連携しやすくなったこと、ML 配信にかかる井村 広報委員長のご負担が多かったこともあり、事務局に既に実働していただいているが、今後は有償にて依頼したく考えている。現段階では未見積であるため、方向性についてのみ了承をいただきたい旨が依頼された。

上記の方針について、全会一致で承認された。

17. 電気・情報関係学会北陸支部連合大会【審議】 中島 事務局長

2024 年度電気・情報関係学会北陸支部連合大会が、9 月 14 日（土）にオンライン開催されることが報告された。本会の北陸支部も主催団体の 1 つであり、そこでの発表に対して選奨を行いたい旨が報告された。選奨予定日は 11 月 30 日（土）であり、9 月の発表に対して「優秀論文発表賞」、「研究敢闘賞」、「研究奨励賞」及び「努力賞」の選定を行う予定である。

上記の 4 つの選奨申請について、全会一致で承認された。

18. 関東支部選奨申請【審議 Q-4】 佐久間 理事（代理：荒船 理事）

2024 年 11 月 30 日（土）に開催される関東支部若手研究者発表会において、優秀発表賞を設定したい旨が報告された。若手研究者の発表講演の中から、生体医工学の発展に寄与すると考えられる成果を表彰し、当該研究・開発の更なる発展を奨励するものである。参加者が増加していることに対応するため、賞金を半額として選定人数を倍にする予定である。

上記の選奨申請について、全会一致で承認された。

19. 関西支部若手国際化基金国際会議参加助成【報告 Q-7】 坂田 理事（代理：原口 理事）

関西支部若手国際化基金国際会議参加助成として、2024 年 6 月 6 日に選奨が行われ、以下の受賞者が選定された旨が報告された。

受賞者：森本 高史（リプロダクションクリニック東京/兵庫県立大学）

参加学会：40th Annual Meeting of European Society of Human Reproduction and Embryology

開催日時：2024 年 7 月 7 日～10 日

開催場所：RAI Amsterdam, Amsterdam Netherland

賞金額：5 万円

上記の選奨報告について、関西支部長が杉本 先生から坂田 先生に変更されたことが選奨報告者欄に反映されていない旨が指摘されたため、承認としたうえで修正いただき、賞金の授与に移ることとした。

20. 選奨申請-若手研究奨励金及び選奨申請-若手講演奨励賞【審議 Q-8】 成瀬 理事

日本生体医工学会中国四国支部若手研究奨励金の申請について報告された。若手会員による研究成果の国際化を目的とし、国内外での学会発表を奨励するものである。賞金は 1 人当たり 10 万円であり、生体医工学に関わる学術会議・研究会等にて発表する本会中国四国支部会員であること、および発表時に 39 歳以下であることが条件である旨が報告された。

上記に対して、受賞の条件について、中国四国支部会員と限定することは公益性の観点から避けるべきである旨が指摘された。また、非会員でも申請可能だが、受賞時は会員になっていた旨、そして、選定の際に基準が必要である旨が指摘された。

以上より、賞の設定については全会一致で承認したうえで、選定基準の設定と条件の修正を行っていただくこととした。

続いて、第 47 回日本生体医工学会中国四国支部大会 若手講演奨励賞の申請について報告された。第 47 回日本生体医工学会中国四国支部大会における若手研究者の発表講演の中から、生体医工学の発展に寄与すると考えられる成果を表彰し、当該研究・開発の更なる発展を奨励する。賞金は発生しないが、記念品として Amazon ギフトカード（最優秀 10,000 円、優秀 5,000 円）を贈呈する予定である旨が報告された。また、当支部大会において発表を行った、発表時に満 39 歳以下の方が対象である旨が報告された。

本奨励賞の設定について、全会一致で承認された。

21. 国立研究開発法人科学技術振興機構 井上春成賞贈呈式への欠席、及び他学会改

選のお知らせ 受領【報告 Y-1】 黒田 理事長

国立研究開発法人科学技術振興機構 井上春成賞贈呈式への出席の依頼があったが、本受賞者は日本生体医工学会とは無関係の方であり、また当日に別の予定があったため欠席した旨が報告された。

また、日本医学放射線学会、日本臨床工学技士会、日本臨床工学技士教育施設協議会、および日本医学物理学会から、役員改選の連絡があった旨が報告された。これに対して、本会から何らかのアクションを起こす必要があるか質問され、従来と同様、今回も特別の対応はしないこととした。

22. 内閣府へ定期報告及び定款変更（齋藤奨学事業：目的事項追加）の内閣府への報

告【報告 Y-2】 中島（一） 事務局長

年 2 回行われている、内閣府への事業報告書などの提出が完了したことが報告された。報告内容は、総会資料と同様である旨が報告された。

また、定款の変更についても内閣府に報告予定である旨が報告された。主な変更内容としては、齋藤奨学事業に関する事項の追加、特段の事情がある場合の理事長の再任、および株式会社 PCO への事務局変更についてである。定款変更は登記手続き完了後に進める予定である旨が報告された。

本件について、登記がいつ完了するのか質問され、8 月中に終わらせるように進める予定である旨が回答された。これに対して、議事録署名を終えて 8 月末までの完了予定である。また、7 月 23 日に 2024 年度新任、再任、退任の理事、監事へ登記手続きに必要な書類一式を送付した旨が報告された。また、鹿児島大会の臨時総会で理事長選挙を行い承認したが、本来の理事長の任期は定時総会完了までである。そのため、鹿児島大会を定時総会と同等とするために、役員任期満了前に退任予定の先生には臨時総会にて辞任届を提出いただき、早急に次の理事会に移行した旨が報告された。またこれに伴い、大会は 6 月に開催すべきか質問されたが、5 月中の決算が困難である旨が回答され、また、定時総会と大会は必ずしも同時に開催する必要はない旨が回答された。

23. 選奨申請・支部大会研究奨励賞【審議 Q-1】 大橋 理事（代理：豊原 北海道支部

連絡幹事）

日本生体医工学会第 63 回北海道支部大会において、北海道支部大会研究奨励賞を設定したい旨が報告された。受賞者の予定数は 2 名であり、12,000 円の賞金が発生する。本大会で研究成果

を発表したもののうち、学部生、大学院生、研究生などを候補とし、会員・非会員を問わないが、受賞後は本会に入会することを推奨する旨が報告された。

本奨励賞の設置について、全会一致で承認された。また、今後各支部長が報告できない場合には、川田 支部担当理事に報告を担当いただくこととした。

24. 生体医工学テキストの改訂について【審議 I-2】 平田 理事

生体医工学 web 辞典、及び生体医工学のテキスト「医療に活かす生体医工学」の改訂について報告された。本テキストが発刊されて、4年が経過しようとしており、時期的には5年を目途に改訂版を出版したい旨が提案された。今回の改訂では、工学系の学生の購読数を増やすため、従来どおり学生が興味を持ちやすい内容という点は維持するものの、工学系に振った内容にし、更に人工知能の医学応用の普及にも対応するなど、この4年間の変化にも対応したい旨が報告された。これに伴い、改訂に関する編集委員会を医学科 ME 教育 WG の委員で立ち上げ、内容の検討、および構想を練る予定である旨が報告された。

なお、これに伴い、生体医工学テキストと連携している生体医工学 web 辞典についても改訂をする必要があり、改訂内容について、今後、医学科 ME 教育 WG にて検討したい旨が報告された。

生体医工学 web 辞典、および生体医工学のテキスト「医療に活かす生体医工学」の改訂及び編集委員会の立ち上げについて、全会一致で承認された。

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____